

編集：山田浩司 & 美澄

Address: 2208 North Quantico Street, Arlington, VA, 22205, USA

Phone: 1-703-241-0621 E-Mail: mickeyy@pc4.so-net.ne.jp

白銀は枯木の山並の彼方に

ワシントン近郊のスキーリゾート



「サンチャイ通信」先月号でご紹介した通り、1月の積雪を契機にスキーを始めようという機運がにわかには盛り上がり、すぐに干智を除く家族全員のウェアを揃えた。かなりの出費になったので、せめて今シーズン中に3回は行きたいねと夫婦で話した。

少し前なら考えられなかった選択肢だ。なにせ旦那にとっての「ウィンタースポーツ」といったら「マラソン」だった。美澄は独身時代 JICA のスキー部に入っていて、初心者だった冬に1シーズン6回スキーに出かけたという猛者だったが、旦那がいっこうに興味を示さないため、結婚後全くすべっていない。勿論、子育てに忙しかったということもある。こちらのスキー場は4歳頃からスキー教室が開講されるので、樹生を連れてスキーに行くチャンスは、今年初めて訪れたのだ。

こちらは、自宅から車で2時間程度のところにスキー場があり、朝起きて気が向けばふらっと出かけることができる。勿論、ブーツや板はレンタル可能だ。人工雪なので今年のような暖冬では、日中、日が高く昇るとすぐに雪が融けてしまう。それでもこの気軽さは捨て難い。行ってみるとジープンですべているオジサンも結構いる。ウェアを購入した後、最初の2週間は週末に子供が体調を崩しているケースが多く、なかなか出かけられなかったが、2月中旬に入って White Tail (ペンシルベニア州)、Bryce (バージニア州) と立て続けにでかけた。

雪質の重さを嘆く美澄ママも、久々にゲレンデに出ることができて大満足だ。パパが子供の相手をしている限られた時間の中ではあるが、少しずつ難しい斜面にアタックを試みている。体力の低下を嘆きつつも、私が遠目に見たその姿は様になっている。

それにも増してエキサイト気味なのはゲレンデデビューを果たした樹生君だ。そり遊び同様、スロープをすべり降りる感覚に味を占めたのか、飽きっぽい樹生にしては珍しく集中し、何度も何度も初心者向け緩斜面に挑んだ。最初のうちは転ぶ回数も多く、転んでも1人で立ち上がれなかったが、みるみるうちに上達し、転んでも1人で立ち上がれるようになり、そして転ぶ回数も減ってきた。未だTバー(ワイヤーロープにつかまって斜面をすべり上がってゆくリフト)が上手く使えないため、無理な中腰で一緒に登るパパやママはたまったものではない。パパはギックリ腰再発の瀬戸際だ。でも、樹生の上達振り、そして熱中振りは、見ていてやっぱり頼もしい。

何、パパのスキーの腕前？実は、浩司パパ、独身時代の 1991 年冬、来るべきゲレンデデビューの日を夢見て狭山の室内人工スキー場で 1ヶ月集中してすべっていたことがあるのだ。オールナイトのチケットでガンガンすべり、狭山なら上から下までこけずに降りられるレベルには達した。当時の職場の仲間がスキーをやらなかったのがゲレンデデビューの機会もなく、そのうちマラソンを始めてスキーから全く遠ざかったが、素地はあるのだ。「所詮狭山でしょ。」と美澄や美澄の友達にはバカにされているが、それでも Bryce の初級コースの一発勝負で、2 回こけただけで降りて来た。どんなもんだ。



来年はアタシの出番よ！ By ちさと

蚊帳の外のチッチーは来シーズン待ちだ。来年の冬までこちらにいられば、一度はコロラドのパウダースノーのゲレンデもすべってみたいねと家族の意見は一致している。

山田ファミリー、新興温泉宿に名を残す

ワシントンの西、ウェストバージニア州との州境に近いシェナンドア渓谷には温泉が点在しており、「〇〇スプリングス」という地名が多い。有名なのは「バークレイ・スプリングス」なのだが、この温泉は日本みたく熱くないそうなので、あまり行く気になれずにずっといた。ところが、昨年 7 月、州間高速道 81 号線をバージニア州ストラスバーグから下りて 10 マイルほど農道を走ったところに、「ペンブローク・スプリングス」という温泉付きの B & B（朝食付きの宿）ができて、ワシントン界隈の日本人の間では口コミで噂が広がっている。オーナーの奥様が日本人で、温泉も地元の鉱水をさらに加熱したもので日本人好みの湯加減なのだ。それを聞いて、美澄ママは行きたい行きたいと切望した。

当地の JICA 関係者の中では、11 月の感謝祭中に戸田次長御家族が泊りがけで出かけた。それに加えて 2 月の連休中に戸田家がまた出かけることを知り、居ても立ってもいられなくなった美澄は、その翌週の金曜日に私が休暇を取るのをいいことに、泊りがけの温泉ツアーをとうとう計画したのだった。

ペンブロークスプリングスは、アメリカ国務省を退官したウォルター氏とタエコ夫人が経営していて、夫妻が東京、ギリシャ、キプロスと渡り歩いて揃えた思い出の調度品が、室内に数多く散りばめられていた。信州のペンションを高級化した感じで、雰囲気はそれなりに良いのだが、何となく小さな子供を連れて行きづらい感じがした。当日は宿泊客が我が家だけだったので本館の客室に泊めてもらえたが、10 歳以下の子供連れは原則別棟のキャビンでの寝泊りしか認めていないようだ。キャビンの方は少し本館から離れていて温泉へのアクセスがしづらいが、近くには動物小屋があって、子供連れには確かに良いかもしれない。

家族連れはキャビン泊まりという原則を曲げて今回本館に泊めていただけたわけだが、残念ながら今後はこの原則はきちんと守られるに違いない。というのは、我が山田ファミリーが、悪しき前例を作ってしまったからだ。

泊まった夜のこと。夕食も終わり、美澄はマッサージのサービスを受けるため別室に行き、私が御夫妻と雑談をしているうちに、ふと見ると、樹生と千智が居間の皮製ソファの背の部分に爪を立て、引っかけて落書きをしているのではないかと驚いて近くに行ってみると、可愛い女の子の絵が 2 つ書かれている。誰が書いたのかと尋ねると、「ちーちゃん」（樹生）、「あたしー」（千智）と一致。現行犯なので弁解のしようがない。御夫妻は初めての経験だったらしく、相当ショックを受けられた御様子で、謝っても取り付く島がなかった。「だから我が家は Child-proof（子供が来ても大丈夫な仕様）

にはなっていないって言っているのよね」とか「思い出のソファーなのに」という夫婦の会話が英語で展開されているのを全て横で聞いていて、私はそんなに大事なもののばかり置かれていて傷つけられるのを気になさるのなら、もう子供達を連れて来れないなと思った。さすがにお兄ちゃんの樹生は、自分が悪いことをしたことがすぐに理解できたようで、パパに怒られた後、自分から御夫妻に謝りに行った。「子供さん達が悪いわけじゃないの。私達の配慮が足りなかったのよ。」と言われたが、なんとなく本館宿泊を無理強いしちゃったかなという気分になった。マッサージからなかなか帰って来ない美澄が恨めしかった。

そんなわけで、多分、今後いかなる状況であれ子供連れは本館の客間には泊まらせてもらえないことになるだろう。そして、山田家の悪名は、ソファーの傷とともに後々まで語り継がれることになるだろう。実際にうちの子供達が爪で引っ掻いているのを目撃してしまったから言い訳のしようがないが、実は心に引っかかっていることがある。それは、あの女の子の絵は、千智にはとても描けないということだ。試しに千智に女の子の絵を紙に描かせたけれど、かろうじて顔とわかる程度にしか描けない。あれは我々よりも前に泊まっていたどこかの子供が描き残して行ったものなのだと思う。それを見つけた我が家の悪ガキが、それを真似して描いていたところをバッチリ目撃され、結果我が家が全ての罪を被る格好になってしまったが、前に描かれてあった絵が呼び水になったのは多分間違いないだろう。

末代まで語り継がれるであろう山田ファミリーの悪名を、もしこれからペンブロークに泊まってオーナーから聞かされることがあれば、その責任が全て我が家にあるわけではないということをご理解いただければ幸いだ。確かに温泉の湯は十分熱いので、温まって疲れをほぐすことはできると思う。多分美澄は温泉をエンジョイできたと思うが、私は正直言ってあの夜は一刻も早くあそこから逃げ出したいという心境で、ゆっくり湯に浸かる気持ちにはなれなかった。ああしんど…

パパ、今夜もお話聞かせてよ！

2月中旬、ジョージ・W・ブッシュ大統領が日本を訪問した際、教育通のローラ夫人が東京都内の小学校を訪ね、「Curious George (ひとまね小猿のジョージ)」という絵本を紹介していたのをTVのニュースでご覧になった方は多いのではないだろうか。恥ずかしながら私は「Curious George」というのが絵本だったことをその時初めて知った。それまで、おもちゃのキャラクターだとばかり思っていた。(都会育ちの美澄は、「そんな自分が子供の時から日本でも絵本が出るよ～」と平気で言うが、田舎育ちの私が知る由もない!)こりゃそのジョージとやらの絵本を買って日本の皆様に自慢するしかないと思った私は、さっそく子供達を連れて、近くの大型書店に出かけた。なんとまあこのジョージとやらは、20世紀初頭からアメリカでは知られていた相当クラシックな絵本キャラクターらしい。いくつかのストーリーを収録した分厚いクラシック版が出ている。日本へのお土産にはけっこう良いかもしれない。



ことほど左様で、最近、我が家の絵本の蔵書は充実の度合いを増している。日本から持って来ているものもあるし、こちらで買い足したものも多い。年明け以降、子供達を寝かせる時間を以前より30分程度早くした。その上で、消灯の前に必ず樹生に1つ、千智に1つ、お話を読み聞かせるのが日課になっている。朗読するのはたいていパパの役目だ。ママの勉強の時間を作るため、子供を寝かし付けるのはパパの仕事になっている。本は子供達に選ばせる。ベッドのそばの小さな書棚には、いろいろな本が

置かれている。日本の絵本の時もあるし、アメリカの絵本の時もある。日本語の文字を教えるには至っていないし、英語に至っては樹生ですら未だアルファベットを覚えている段階なのだから、今はせめて本を読む楽しさだけでも十分味わって欲しい。英語のストーリーが聞いて理解できるようになればラッキー、加えてオヤジにとっては朗読を通じて英語の練習にもなる。子供達にとって、目下のブームはジョージだ。

書店に行って子供達に買って欲しい本を選ばせると、樹生は乗り物の本ばかりだし、千智はTVのキャラクターものが多い。明らかに絵に惹かれて選んでいるのだが、親としては言葉も理解して欲しいので、イラストと文章のバランスが良いものを選ぶように心がけている。「Curious George」シリーズは、1頁当りの文が短く、イラストがわかりやすいので、英語が母国語ではない子供達に読み聞かせるのにはなかなかの素材だと思う。

ああ憧れの自動車通勤



昨年9月に実家の両親一行が訪れた際、どうしてもグランドキャラン 1台だけでは全員収容できないので、もう1台中古車を買おうかという話をしたことがある。今の住居は地下鉄駅から徒歩8分なので車がなくても支障はないが、当時この賃貸契約は11月上旬までだったので、次に引っ越すとしたら通勤の心配をしなくてもよい形にもしたかった。9月11日の同時多発テロの後、無防備な地下鉄で通勤するのが何となく怖くなったこともある。でも、結局大家がもう1年居住を了承してくれたのでこの話は立ち消えになった。

その後、美澄が学校通い、千智が託児センター通いを始めるに当って、暫くは子供達を別々の施設に通わせねばならないため、どちらか一方の朝の送迎を私が担当した方が良いということになり、先ず世銀の契約駐車場の空きを待つことにした。オーダーして2ヶ月待つようやく空きが出た。すぐに契約した。

次は肝心の車の購入だ。セカンド・カーだから中古のボロ車でもいいが、自分が普段世話になるからには少しだけ車種にこだわった。ごちゃついたDCの街中を走る以上、走行距離はともかく2ドアの小型クーペにしたいと。結局選んだのは、96年型のトヨタ・サイノス（現地名「パセオ」）だ。（1台目購入時にアメ車への憧れを口実にしたように、2台目をサイノスにしたのにも理由がある。その昔、私が就職活動で某地方銀行勤務のOBをタ方訪問して晩飯をご馳走になった後、その方に駅まで送っていただくのにトヨタMR2に乗せていただいた。それ以来、MR2のオーナーになり、通勤にMR2を使うのは社会人としての夢でもあったのだが、車なしでもやっていける職場と生活環境に慣れ親しむうちに、やがて結婚し、家族が増え、2座席のMR2はニーズに合わなくなった。子供の送迎をするなら4座席は必須、となればサイノスが最も希望に近い。）

ワシントン・ポスト紙のウェブサイトの中古車売買ページで同車種と希望購入価格上限とオートマという条件で検索し、一番条件が良かった物件をディーラーにアポ取って見に行った。試乗した上で即決だ。今回は、運転免許証も社会保障番号を取得済みだったし、保険はグランドキャラン購入時に加入していたので保険会社に電話して保険対象車を増やしてもらっただけですんなりと手続が終わってしまった。

こうして手に入れた私のプライベートカー。購入して2日もしないうちにバッテリーが上がってレッカー車のお世話になるハプニングもあった。9万マイルといったらアメリカでは「低マイレージ」だが、メートル換算だと15万キロ弱で、むしろ使われ過ぎの部類に入る。エンジンがへたっていても多少は仕方ないし、車体に多少の傷があってもまあいいかと思っている。レッカー車のお世話になった場所は美澄の友人宅そばの路上、金曜日の夜で運ちゃんも無愛想で結構ばつが悪かったけれど、車が立ち往生した場合どう対処するか、良い勉強になった。幸い、その後トラブルはない。朝の通勤では地下鉄より若干時間がかかるが、帰りは逆に5分ほど早く家に着く。

結局、千智を通わせ始めたホームプロバイダが樹生の託児センターから近く、美澄の学校も近いため、美澄が子供2人を送る形で決着したので、車が宙に浮いた格好だ。しかし、車2台あることで、懸案だった私の剣道に子供を連れて行くことも、職場からロックビルの道場に直行することも可能になった。車1台でやり繰りしていた時分のことを考えたら、少しは生活の幅が出来たように思う。

今月の多言暴言 いろいろと考えたこと

▶ **NGO 脚光を浴びる!** : 少し古い話題になるが、1月のアフガニスタン復興支援東京会合以降、非政府組織 (NGO) が日本でにわかに脚光を浴びている。事の経緯はともかくとして、開発援助における NGO や市民社会の役割を全く理解していない某政治家を窮地に陥れ、声のでかい政治家の意向を気にする外務省の役人の実態を暴いたり、変な形での注目のされ方だったかもしれないが、結果的に日本の普通の市民の間に「NGO」という言葉を定着させる画期的な出来事だったと思う。実家の母が電話で「NGO」という言葉を口にしたり、NHK が「週刊子供ニュース」で取り上げたり、驚くべき変わりようだ。私は「シャプラニール」という、バングラデシュとネパールで住民主体の開発支援を行なっている NGO の会員になっている。仕事の片手間なのでアクティブな会員では決していない。でも、JICA でも世銀でも、ODA の仕事が今や NGO との連携協力なくしては成り立たない今のこの業界にあって、実際に自分が NGO の会員になって海外協力を行なう「市民」としての視点を持つことで、「お上」としての思い上がりを諷め、NGO の役割を正當に評価するのに繋がっていると思う。あの事件の後、田中真紀子外相まで辞めさせる必要はないとの世論の声は強かったけれど、冷静になって見てみれば田中外相が組織のリーダーとして適切だったかといえどもともそうとは思えないというのが外野としての率直な感想である。真紀子さんは更迭された後の国会証人喚問で「外交を官邸に仕切られた」ような発言をしていたが、それはやはり身から出た錆だと言わざるを得ない。この1年の外務省のドタバタは、ワシントンの国際機関職員の間から見ていて恥ずかしいばかりだった。

▶ **「USA! USA!!」はもうウンザリ** : 2月はやっぱりソルトレークシティ冬季オリンピックだが、アメリカのこれでもかと言わんばかりの国威発揚報道振り、恥も外聞もなく「USA!」を連呼する観客に、鼻白む思いを感じていたのは私達だけだろうか (う〜ん、でも「ニッポン、チャチャチャ」も同類か?)。国内では NBC が独占放映権を持っているため、「TV ジャパン」は日本人選手のパフォーマンスを動画で報道することができず、NBC は NBC でアメリカ人選手中心の報道を展開していたので、肝心の日本人選手の活躍を TV で全く見られなかった。近年の五輪競技はトレーニングのハイテク化が進み、経済力がある国ばかりが強い選手を育てられるという悪循環になってきている。そのうち、五輪開催地がアメリカばかりで、そこでは「USA!」連呼の観客に応じてアメリカ人選手がメダルを獲りまくるという光景が繰り返されるかもしれない。一方、過去最大の選手団を送り込みながらメダル2個しか獲れなかった日本、費用対効果をもっと



考えた方がいいんじゃないかと思う。税金払っているんだから「楽しんで」競技してもらっちゃ困る、今の日本経済の低迷振りからすると、勝ち目のない競技は捨てて少数精鋭主義の選手選抜をすべきだと個人的には思う。

- **渇水で、底が見えるかアメリカ人**：ここ数ヶ月、きちんとした雨が降っていないため、最近、水不足を危惧する報道が目立つようになってきた。このあたりの水道水は、ポトマック河からの取水だが、日本の河川と違って一度や二度上流で集中豪雨があったからといって簡単に水量が増えないのがこちらの河だ（逆に洪水（というか増水）の時は、ジワジワと水位が上がリ、簡単には引かない）。なんでもかんでも大量消費のアメリカで、渇水対策の給水制限が行なわれる事態になったらアメリカ人はどう対処するのか、ちょっと楽しみである。フランス革命前の18世紀のフランスで、王妃マリー・アントワネットが、「(民衆が飢餓でパンが食べられないのなら) ケーキを食べれば良いではないか」と言ったという逸話は有名だが、アメリカ人ならさしずめ、「水はなくてもコーク（コカ・コーラ）があるわ」とでも言うのだろうか。かく言う我が家でも、廉価スーパー「COSTCO」でミネラル・ウォーターを大量に買い込んでいる。



編集後記

- 3月16日に美澄が合気道昇級試験を受けます。2月半ば頃迄は週1回しか通っていなかった「ノーザンバージニア合気会」の練習を週2回に増やし、日中は学校の勉強に忙しいのに夜も頑張っています。挑戦するのは五級なのでよほどのことがない限りは合格するだろうと期待しています。当日は家族全員で応援に行きたいと思います。(浩司)
- 美澄の合気道クラブの練習日が変わり、水曜日に練習があるため、これまで水曜日に「志道学院和親館ロックビル・クラブ」の練習に出ていた私は、週2回を確保するため、土曜日夕方に「ノーザンバージニア武道会」が主催している、ジョージ・メイソン大学(GMU)での練習にも顔を出し始めました。元々DC周辺のクラブは大会に出る度に団体戦のメンバーの融通を図ったりして交流がある上に、私が昨年12月に二度ほどGMUの練習に参加して以降、GMUのリーダーのバーンズ氏から何度か「練習に来てくれ」と誘われていました。私の当面の目標は5月の「クリーブランド剣道トーナメント」で、GMUのメンバーの何人かとは個人戦で当たる可能性があるため、今はできるだけ多くの人と稽古して、稽古慣れしておきたいと思っています。(浩司)
- 久々にスキーに行ってきました。結婚して以来行っていなかったので、かれこれ7年ぶりでしょうか。日本を発つ前は樹生と千智が3歳と1歳で2人ともまだ小さく、子育ての真っ最中だったのでスキーに行けるなんて全く考えられませんでした。そのためウェアや手袋などの小物を全く持ってこなかったのですが、思わぬ出費にこんなことだったら持って来れば良かったと思いました。これも子供達が大きくなってきたからこそ出来たことですね。まだ千智は小さくて出来ませんでしたが、来シーズンもアメリカに居られたら、今度は千智もゲレンデデビューさせたいと思っています。それまでに足腰を鍛えねば…。(美澄)
- 2月もあっという間に過ぎていきました。友達に電話をした日がたまたま節分だったので、慌てて大豆を電子レンジで炒って豆まきをしました。鬼の面も無くただ家の外と中に豆を撒いただけだったので節分の雰囲気は子供達には伝わりにくかったように思いますが、日本の行事はなるべく伝えてあげたいと思っています。(美澄)